

**武田薬品工業株式会社：
SAP® Document Access by OpenTextで
証憑を電子化し、管理負担を大幅に軽減
シェアードサービスによるさらなる効果にも期待**

導入パートナー

OPENTEXT

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

社名

武田薬品工業株式会社

業種

ライフサイエンス

事業内容

医薬品、医薬部外品等の製造・販売・輸出入

Web サイトwww.takeda.co.jp/**SAP® ソリューション**

SAP® ERP、SAP Document Access by OpenText

パートナー

オープンテキスト株式会社



革新的な新薬、高品質なブランドジェネリック医薬品などの提供を通じて、人々の健康と医療の未来に貢献し続ける武田薬品工業株式会社。同社では、保守期限を迎えたホストコンピュータの切り替えを機に、SAP ERP と SAP Document Access by OpenText を組み合わせた新たな経理システムを構築。**会計帳簿および証憑の電子化を通じて、経理業務の標準化と効率化を推進し、大きな成果を上げています。**

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

優れた医薬品の創出を通じて 人々の健康と医療の未来に貢献する

1781年に大阪・道修町で創業以来、230年を超える長きにわたり、優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献し続ける武田薬品工業株式会社(以下、タケダ)。タケダイズム(誠実: 公正・正直・不屈)を事業の根幹に据え、高い倫理観と強い使命感の下、世界各地でビジネスを展開する同社の医薬品は、世界約100カ国で販売されています。

2011年にはスイスの製薬大手ナイコメッド社を買収し、新興国の市場拡大に向けた具体的な戦略に乗り出すなど、グローバルビジネスの基盤整備を着々と進める同社では、2020年のグループ全体の“あるべき姿”を示す「ビジョン 2020」を策定。“Better Health, Brighter Future”をキーメッセージに掲げ、「革新的な新薬、高品質なブランドジェネリック医薬品、ワクチン、一般用医薬品をお届けすることで、少しでも早く、少しでも多くの人々の願いに応えていく」ことを事業の目標とし、人々の健康と明るい未来の実現に貢献する真のグローバル製薬企業への変革にチャレンジしています。



約100カ国

研究開発型の
グローバル製薬企業として
世界約100カ国で
医薬品を販売

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

紙ベースの証憑管理の電子化による 経理業務の標準化と効率化

タケダでは従来、グループの事業運営を支える経理業務の基盤として、1990年代半ばに自社開発した経理システムを利用していました。ホストコンピュータ上で稼動するこのシステムは、医薬品だけでなく、当時同社が事業展開していた食品、ビタミン、化学品、農業、動物薬などの事業もカバーする非常に大がかりなものでした。しかし、医薬品事業への特化による経営環境の変化や、自社開発システムであるが故の運用管理の負荷、および障害対応や機能拡張時における属人的な課題があったため、2009年に迎えるホストコンピュータの保守期限を前に、これに代わる新たなシステム基盤の具体的な検討が2005年4月に開始されました。

当時、タケダの経理部門が抱えていた主な課題としては、1. グループ経理システムの共通化による適時・的確な情報収集力の強化、2. J-SOX 対応を見据えた内部統制の強化、3. 経理業務の標準化および効率化、の3点がありました。なかでも経理業務の標準化と効率化については、会計帳簿および証憑の電子化が急務の課題となっていました。

同社の会計センター所長を務める藤田佳久氏は、当時を次のように振り返ります。

「以前は紙ベースの証憑を手作業でファイリングして管理を行っていましたが、月あたり段ボール箱で50個分ものボリュームになるだけに、現場には大きな負荷がかかっていました。営業担当などから“何年何月の証憑が欲しい”といった依頼があった場合など、証憑の保管庫に行って探し出すのは大変な作業でした」

「新経理システムは第一に、グループの経理システムを共通化して、適時・的確な情報収集力を強化する。第二に、当時大きな話題になっていた日本版SOX法を見据えて内部統制を強化する。第三に経理業務の標準化と効率化を進める。これらを念頭にシステムの選定を行いました」

藤田佳久氏 武田薬品工業株式会社 会計センター 所長

概要

SAP® ERPとのワークフロー連携で豊富な実績 e文書法へも対応した電子証憑ソリューション

会社紹介

導入の背景/目的

SAP選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

新たな経理システムの構築にあたって、タケダでは以前のような自社開発のシステムではなく、将来的なグローバルビジネスの拡大やJ-SOXなどにも柔軟に対応できる、豊富な標準機能を備えたシステム導入を目指すことを基本方針としました。

「この方針のもとでさまざまな議論が交わされた結果、有力な候補となったのがSAP製品でした。選定の過程では他の製薬大手や異業種における導入事例の調査も行いましたが、SAP製品の圧倒的な採用実績には驚かされました。当社内でも、すでに生産管理についてはSAPが採用されており、海外子会社の中には会計モジュールを利用しているところもありました。こうした状況を踏まえた総合判断から、最終的にSAP ERPの採用を決定しました」(藤田氏)

一方、会計証憑の電子化を進めるためのソリューションについては、SAP ERPとの親和性、特にワークフロー連携の実績が大きな選定ポイントとなりました。会計センターの高沖文月氏は「証憑の電子化については、他社の現場を視察したり、さまざまな企業の電子化事例などを調べました。この中で、多くの事例でSAP ERPとの親和性が実証されていたのがSAP Document Access by OpenTextでした」と説明します。

オープンテキスト株式会社が提供するSAP Document Access by OpenTextは、SAP ERPのトランザクションやプロセスと各種文書を関連付け、ドキュメント管理を支援するソリューションです。紙ベースの証憑をスキャンして電子化し、アーカイブ用サーバーに退避させ、必要に応じてオンデマンドで取得できるようになることで、同社の経理業務における最大の課題であった効率化という面で大きな成果が期待できます。

またソリューション選定においては、将来的なe文書法への対応も判断基準となりました。

「e文書法では、クリアすべき多くのハードルがあります。たとえば、過去の履歴はすべて閲覧できなければならない、前日スキャンした対象を一括検証し、さらに改ざんがないことの証明を受けなければならないなど、機能的要件をSAP Document Access by OpenTextは満たしています。この点も他のソリューションにはない優位性として評価しました」(高沖氏)

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

SAP ERPとの親和性を最大限に活用し 証憑管理のすべての業務をカバー

2005年下期からスタートした導入プロジェクトは、2006年7月に経営会議での正式な承認を得た後、順調に進行。2007年4月にはSAP ERPの経費精算システムが先行して稼働、翌年の2008年4月にはSAP ERPすべての機能が無事稼働を迎えました。

SAP ERPとSAP Document Access by OpenTextの導入が成功に至った背景には、参画するメンバーの選定を含めた緻密なプロジェクト管理がありました。

「当時の経理部長をプロジェクトオーナーに、会計センター所長ほかシニアマネージャー陣がステアリングコミティという立場で参画し、また対象とする業務別に関連する部署から担当者を適宜アサインしました。たとえば、固定資産に関わる機能については、実際の業務に精通した担当者に参加してもらい、一つひとつ確認しながらプロジェクトを進めました。ただ単にシステムを導入するだけでなく、それを最大限に活かすための教育、啓蒙活動を並行して行ったことも、プロジェクトの成功に一役買ったと

思います。システム面では、SAP ERPが持つ標準機能をそのまま活かすこと、つまり不要なアドオンは極力排除する方針を進めたことが、迅速な導入につながりました。もちろん、それまでの手作りシステムのような“痒いところに手が届く”的な対応はできなくなりますが、この点は各部門の担当者に参加してもらい、標準化によってもたらされるメリットを理解してもらうことでハードルをクリアしました」(藤田氏)

さらに証憑の電子化機能については、当初の狙い通りSAP Document Access by OpenTextとSAP ERPの親和性の高さが、スムーズな導入に大きく寄与しています。

「部門からの要望で、一部の検索機能と証憑だけの一括ダウンロード機能を別途開発しましたが、それ以外についてはSAP Document Access by OpenTextの標準機能で、大部分の業務をカバーすることができました。親和性の高さを最優先に製品を選定したことが、この結果につながったと確信しています」(高沖氏)

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

会計伝票と電子証憑の完全連携で 瞬時の検索、閲覧が可能に

新システムの稼動以降、タケダでは次のような流れで証憑書類の管理が行われています。まず各部門の担当者は、領収書などの証憑について、自らその内容を経費精算システムで起票し、証憑貼付台紙を出力。ここに領収書を添付して上長に提出します。上長の承認を経て、領収書などが貼付された台紙は経理部門に送られます。これらの台紙は経理部門のスキャンセンターに集められ、ここで「2段階チェック」を実施。2段階チェックとは、紙ベースの資料が届いた際に取引内容を目視でチェックする「到着時チェック」と、スキャン後にSAPの検索機能を利用して行う「検索・照合チェック」です。スキャン済みの証憑は段ボールに格納されて保管庫に回されます。

一方、システム上での関連データの流れは、以下の通りです。各部門の担当者が直接入力した伝票情報は、その段階でSAP ERPに登録され、この内容に対応するバーコード情報が台紙上にプリントされます。経理部門のスキャンセンターでの台紙スキャン時にはバーコード情報も同時に読み込まれ、Open Textサーバーに格納されます。この段階以降、SAP ERP上の会計伝票情報とOpen Textサーバー上のイメージアーカイブ情報が紐付けられ、SAP ERP側からのリクエストに応じて、瞬時に呼び出し、参照することが可能となる仕組みです。

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

手作業のファイリングは一切不要 証憑の管理効率は約3倍にアップ

SAP Document Access by OpenTextとSAP ERPによる新システムは、さまざまな面で導入効果をもたらしています。懸案であった“証憑保存の効率化”については、部門単位でのファイリングが不要となった点と、未着管理ができるようになった点が大きな成果です。

高沖氏は「以前の手作業の管理では、1カ月あたり20日間の実働の中で、3分の1くらいはファイリング作業に時間を割かれていたと思います。この時間の中には当然、単なるファイリングではなく、手作業で証憑を探すことを想定した細かな整理も含まれています。新システムでは、スキャン後は基本的に電子データのみを使用するため、このような作業が不要になりました。この結果、8人のチームで担当していた業務が3人で遂行できるようになりました。これには証憑の電子化による証憑ファイリング業務の効率化が大きく寄与しています。またSAP ERPと連動することで、本来到着するはずの物理証憑の未着管理もできるようになりました」と強調します。

さらに、証憑の照会が高速化されたことも大きな効果として見逃せません。高沖氏は「以前は取引先から依頼があると、会計センターの保管庫から証憑を探し出し、コピーして提示しなければなりませんでしたが。しかし、新システムでは申請部門で電子証憑を直接検索し、PDFで取引先に送付できるようになりました」と話します。

SAP Document Access by OpenTextとSAP ERPの連携によって、タケダの経理業務は大きな変貌を遂げています。上記以外にも、経理部門でのモニタリングの効率化といった効果もたらされており、まさに同社は経理業務の標準化が生み出す付加価値を最大限に享受しています。

「新システムによって8人のチームで担当していた業務が3人で遂行できるようになりました。これには証憑の電子化による証憑ファイリング業務の効率化が大きく寄与しています」

高沖文月氏 武田薬品工業株式会社 会計センター

概要

会社紹介

導入の背景/目的

SAP 選択の理由

導入ハイライト

ソリューションの活用

導入効果

今後の計画

国内子会社に向けた シェアードサービスの 展開も開始

証憑の電子化を含む新たな経理システム構築において、期待以上の効果の創出に成功したタケダですが、すでにその視点は次の目標に向けられています。

今後のシステム展開について、藤田氏は「国内子会社を対象としたシェアードサービスの展開に向けて、すでに第一歩を踏み出したところです。昨年、最初の1社へ導入し、現在は2社目の導入を完了。事前に期待した通りの導入効果が得られており、今後、他の子会社を対象に同様の展開を進めていく予定です。」と抱負を語ります。

多様な医療ニーズに応える真のグローバル製薬企業への変革にチャレンジするタケダ。そのファーストステップとして、SAP Document Access by OpenTextとSAP ERPは大きな貢献を果たしています。



お問い合わせ先

www.sap.com/japan/contactsap/

0120-786-727 (受付時間: 平日9:00~18:00)

© 2013 SAP AG or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も SAP AG の明示的許可なしに、いかなる形式、目的を問わず、複写、または送信することを禁じます。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP AG がライセンス、またはその頒布業者が頒布するソフトウェア製品には、他のソフトウェア会社の専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は SAP AG およびその関連会社（「SAP グループ」）が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAP グループは文書に関する錯誤又は脱漏等に対する責任を負うものではありません。SAP グループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

SAP、および本書で言及されるその他 SAP の製品およびサービス、ならびにそれらのロゴは、ドイツおよびその他諸国における SAP AG の商標または登録商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/japan/company/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。



The Best-Run Businesses Run SAP™